

大学生ダンサーのダンス創作活動における

心的外傷後成長に関する研究

—大会に向かう大学生ダンサー・アスリートを対象にして—

村越千紘 (筑波大学)

1. 目的

本研究の目的は、ダンスを専門とする大学生ダンサーの大会出場に向けた創作活動からみられる心的外傷後成長;PTG(危機的な出来事や困難な経験との葛藤やもがきの結果生じるポジティブな心理的变化の体験)の特徴を、他競技の大学生アスリートのPTGとの比較から明らかにすることである。

2. 研究方法

- 1) 対象者: T 大学体育会運動部の部員またはOB・OG。ダンサー群とアスリート群に分け、ダンサー群20名、アスリート群88名の計108名。
- 2) 調査方法: アンケート調査。内容はストレス調査、PTG調査で構成される。ストレス調査の内容はストレス尺度と、競技生活中の主なストレス要因を答える自由記述回答である。PTG調査ではまず一番ストレスを感じた大会を選択してもらい、その後、煙山・尾崎(2015)のスポーツ選手用ストレス関連成長尺度、成長を実感した出来事と成長の契機となったと思う出来事を訪ねる自由記述回答が続く。
- 3) 分析方法: 2つの尺度はt検定、自由記述回答はアフターコーディングで分析した。

3. 結果と考察

- 1) 創作ダンスを行う大学生ダンサーにはPTGが起こることが明らかになった。
- 2) ダンサー群のPTGの特徴としてチームメイトからのストレスを強く受けている分、チームメイトの理解・共感力の成長が特に感じられることがわかった。さらに成長の実感と契機において話し合いの場への言及が多くみられたことから、この成長は主に話し合いの

場で起こっていると考えられる。

- 3) ダンサーは競技に対する態度で成長を感じにくいことも明らかとなったが、これは創作ダンスの評価や方法の曖昧さ(宮本, 2005)に起因すると考えられる。
- 4) 大学生アスリート・ダンサーのPTGの共通の特徴として、意欲が契機となることが明らかになった。これは他のPTG研究分野ではみられない結果である。

4. 結論

本研究を通して創作ダンスを行う大学生ダンサーのPTGの特徴として、チームメイトの理解・共感での成長が感じられやすく、成長は主に話し合いの場で起こることがわかった。また競技に対する態度の変容において成長が感じられにくいことも特徴であった。これらは創作ダンスの評価や方法の曖昧さに起因することが明らかになった。更に、「意欲」がPTGの契機となる事がわかった。今後PTG介入研究で有用性を確認し、ストレスを成長へと変える一助となる事を期待する。

5. 主な参考文献

- 1) 煙山千尋・尾崎光洋(2015)スポーツ選手用ストレス関連成長尺度の開発。ストレス科学研究、30(0):145-149。
- 2) 宮本乙女(2005)創作ダンス授業における学習者によるパフォーマンス評価の研究。お茶の水女子大学附属中学校紀要、34:65-86。